

# 絵画修復家のアトリエから

加賀優記子 絵画修復家

このコラムをかなり久しぶりに書いています。本当はもっと早く、夏前に締め切りがあったのだけれど、ぜんぜん書けなかった。珍しいが、「スランプ」である。

だいたい、こんな短い文章を書くのにスランプなんてあるものかと言われそうだけどホントに「アキマヘン！」状態で、全くもってパソコンの前に座る事すらできなかつたのです。

たぶん、ここ数年の疲れがドツと体調に出て、それが精神にも余波がやってきたんだと思う。思うに、今まで私は、ゼイタクにも大学卒業以来、あまり何事にも、本当には縛られること無しに生きてこれたみたいだ。卒業してすぐに勤めた大学の研究室なんて、学生生活の延長み

り……師匠がルーブルから次の仕事を仰せつかるまでは、毎回師匠を含めて全員実際は失業？）この間は、私は決まっ

たいだったし、初めて社会人になったハ

なりたいという社長ののおかげで、お小使

かんになるまでの約2年は、朝から晩ま



ギリシアにて。滞在していた村には、数える程の民家がポツン、ポツンと点在しているだけだった。

くものを考えて考えて……いるこ

で、その間に何をやってきたのか

めにとっても必要だったのだ。

きたのだ。大体、だからこそ私は修復という仕事

をやっているのかもしれないのです。実

特に夜中かなり有名な名画なんかを難

なことをやってみよう、とかそんな事

う質のものを見分けて材料を使い分け

ま画商さんに作家の生年、没年なんかを

クロ的現象で、例えば目には見えないけ

つと考えたりするのがスリリングなのだ。

それが！平成12年にドイツの博物館



ポルトガル（ナザレ）にて。いつもスケッチブックを片手に一人で色々な処に出没。

つちゃって、それがなんともうかれこれ

に鳴らない。そういう実験はかなり面白

でもありません。

それが！平成12年にドイツの博物館

それで、毎日5分ズレたら万事休す！

に鳴らない。そういう実験はかなり面白

でもありません。

それが！平成12年にドイツの博物館

さ）とか色々言ってくれていたのですが、

に鳴らない。そういう実験はかなり面白

でもありません。

それが！平成12年にドイツの博物館